

よりよい農業経営を目指して

～GAP認証の取得推進～

1 活動のねらい

千葉県では、東京オリンピック・パラリンピックに向けた「持続可能性に配慮した農産物の調達基準」にGAP認証が採用されたことを契機に、GAPの普及・拡大が進んできました。市原市でも、都道府県GAPである「ちばGAP」への取り組み事例からAS I AGAPを取得している法人まで、それぞれの規模に合わせてGAPに取り組んでいます。その中でも、認証取得に意欲を示していた3戸について支援し、GAP推進の活動を展開しました。

2 課題の背景

対象は施設野菜でちばGAP認証取得を目指す1戸、露地野菜でJGAP認証取得を目指す2戸の合わせて3戸で、うち2戸が法人です。GAP認証取得を目指す主な理由は、取引先へのアピール及び他農場との差別化でした。しかし、認証取得がゴールではなく、GAPの本来の目的は、有利販売よりも、「良くない農業行為を改善していくこと」であると理解してもらい、継続的な実践を促す必要がありました。そこで、JA市原市や千葉県安全農業推進課、当農業事務所企画振興課と連携して、GAPの根本的な理解と実践により、地域のモデルケースとなることを目指し、支援を行いました。

3 普及活動の経過・結果

(1) GAPの説明と現行の農業経営管理の見直し

GAPは、日々の農業行為をより良くしていくための手段であり、世界には他にも多くの基準があるという点について、それぞれ個別に巡回し、説明を行いました。ちばGAPは手引書、JGAPは基準書それぞれについて、1項目ずつ説明を行い、現状どう管理しているか聞き取り及び現地確認を行



写真1 農薬保管庫の現地確認

いました。これは同時に、農家にとってセルフチェックの効果もありました。1項目ずつ見ていくと、今まで気にしていなかったが決めておくと良いもの、人や環境へのリスクが高いもの等が浮かび上がりました。そこで改善方法を提案すると、改善する必要性の理解につなげることができました。このように数回にわたり、現地確認と改善方法の提案を続け、GAP認証に向けた支援を行いました。

(2) 具体的な農場改善と評価

実際に農場改善を行うには、まずは整理整頓をするよう勧めました。次に、例を提示しながら帳票類(JGAP)やマニュアル(ちば GAP)を作成するよう促しました。ほ場や作業場の地図や農場のルール作り等では農家自身のアイデアや工夫がされ、農場の構成員の誰が見てもわかりやすいものができました。工程ごとのリスク評価表など、多面的な視点が必要なものや法令が関わる項目については、JA 市原市の JGAP 指導員と共に専門的な助言を行いました。また、食品衛生や労務管理等の経営主が知っておくべき事柄については要点をまとめた資料を渡し、知識の習得を支援しました。



写真2 作成した帳票類の確認

その結果、是正項目はあったものの、3戸それぞれが GAP 認証を取得することができました。

4 今後の課題

今年度の認証取得だけでなく、PDCAサイクル(Plan→Do→Check→Action)を続けていくことが重要です。そのため、今後も現地確認や聞き取りを通じて、よりよい農業経営となるよう支援します。また、地域への波及を図るため、同じ品目を作付している生産者に声掛けし、認証取得農家を紹介し、視察を提案するなど、GAPの推進活動を展開していきます。

5 担当者 市原グループ ◎内藤 千陽、 梶浦 真衣

6 協力機関 市原市、JA市原市、千葉県安全農業推進課